広報
くにみ
No.181
昭和63年7月15日
発行・編集　国見町企画課

おもな内容

消防団定期点検……2
愛の献血に54人……3
水の日・水の週間……4
ふるさとの文化財……5
おしらせ……6～7
公民館だより……8～9
わだい……10

'88
7月

水あそび

6月22日、藤田幼稚園（瀬戸清司園長）でプール開きを行いました。

その日はあいにく肌寒く短い時間でしたが、久しぶりの水遊びに園児たちも大よろこび。水かけなどをして、とても楽しそうでした。

火の守りに誓いもあらた

町消防団定期点検

私たちのたいせつな財産や暮らしを守ってくれる消防団の定期点検が、六月十二日、藤田小学校校庭で開かれ、二百名をこえる消防団員が、キビキビとした動きで日頃の訓練の成果を披露しました。

梅雨空で時折小雨が降るこの日、午前九時に十一台の消防車で町内に整列した団員を観閲し、その後、ラッパ隊を先頭に藤田小学校まで行進。国旗掲揚のあと、通常点検、規律訓練、ポンプ操法、分列行進などが行われいずれも団員の方々の表情には、「火の守りは我々が」と、新たな決意がみなぎっていました。

「団員の皆さんの旺盛な志気と、規律ある訓練の成果が遺憾なく発揮され、誠に力強く、消防団に対する信頼の度をなお一層深めました」と講評があり、阿部恒夫団長からは「当町の消防施設、設備は年々充実されています。これらの維持管理には万全を期し、有事の際には充分な効果が得られるように」との訓示がありました。

続いて表彰伝達が行われ、前副団長の大波治男さんらに感謝状と記念品が手渡されました。

さらに、消火活動協力者として大内守さん（山根）、笠松カツヨさん（山根）、八島義信さん（高城）が表彰されました。

▲ラッパ隊を先頭にキビキビと行進

▲表彰される団員のみなさん

昨年は 一千六百万円が灰に

国見町では、昨年一年間に七件の火災が発生し、一千六百二十七万円もの貴重な財産が焼失しました。今年に入ってもすでに四件（六月末現在）発生しています。

火災の多くは、ちょっとした気のゆるみや不注意から発生しています。一人一人が火の元に十分注意して、火災のない明るい町にしましょう。

火の用心七つのポイント

1. 寝たばこや、たばこの投げ捨てをしない。
2. 子供は、マッチやライターで遊ばせない。
3. 風の強いときは、たき火をしない。
4. 天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。
5. 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
6. ふろの空だきをしない。
7. ストーブには、燃えやすいものを近づけない。

やさしい愛をありがとう

愛の献血に54名の方が協力

七月二日、県の移動採血車が来町し、生協国見店前で献血活動を行いました。

今回は、臨時に実施された献血にもかかわらず、五十四人（申し込み者は八十五人）の方々にご協力をいただきました。

献血は、病気やケガで血液を必要としている多くの人たちのために、すすんで血液を提供しようとする、心のやさしさの表われです。

献血ありがとうございました

（順不同・敬称略）

・印の方は四〇〇cc協力者です。

（一般協力）

瀬戸芳雄　•半沢豊　•本間正夫
高橋和美　•佐藤善幸　高橋秋子
野村光子　菊地昭平
松原恵美子　阿部俊恒
渡部千恵子　高橋力
八島富一　志村トミエ
志村孝明　佐藤清
大槻仁寿　佐藤智浩
宍戸隆一　本田美代子
渡部小百合　鴨田優子
菅原博之　中野シナ
菊地光子　斎藤正美
•松浦正行　小野節子
斎藤安昭　大内久美子
谷津ミネ子　本多ミツ子
•安達功　細川紀子

（商工会）

鍋水正春　佐久間正孝
半沢紀子　•松田征雄
佐藤恵美子　横沢芳栄
菊地多美子　小野正
佐藤正己　松浦正明
•紺野貞昭

（公立藤田病院）

南良祐

（生協国見店）

•橋本富寿男　松浦千賀子
緑川恒憲

（国見電子）

森晴子

（国見町農協）

熊坂文男

（国見町役場）

武田幹夫　佐藤孝

ひとこと

今日は夫婦で来ました。二人とも三回目ですが、献血できるのは健康の証拠ですから。自分の健康もチェックできるし、血液を必要としている多くの人のために、少しでも協力できればと思い献血しました。

▶志村孝明・トミエさん夫婦（高城）

▼血液の不足するシーズン▲

夏こそ献血にご協力を

ギラギラと照りつける太陽、ムンムンする熱気――夏は、日中に街を出歩く人が少なくなり、献血をする人が減少します。またこの時期、休暇をとって出かけたり、帰省する人たちが多くなるので、ふだん献血をしている方たちも〝献血休み〟をとってしまいます。

●二年続けて献血者数が減少

このように、夏になると献血者数が一時的には減るものの、年間の献血者はこれまで少しずつ増える傾向にありました。ところが昭和六十年の約八百七十万人をピークに、年間の献血者数が二年続けて減少しています。昭和六十二年の献血者数が約八百二十二万人ですから、四十八万人も献血者が減っているのです。

こうした傾向は、なぜ起こったのでしょうか。それは、「献血するとエイズや肝炎に感染する」「二百ミリリットル献血がなくなり、すべて四百ミリリットル献血に変わった」などの誤解があるようです。

では、改めて現在の献血方法とその安全性についてみてみましょう。

●エイズや肝炎の心配は無用

現在、献血方法は二百ミリリットル献血、四百ミリリットル献血、成分献血の三種類があります。そして、どの方法を選ぶかは献血者の自由です。また、献血時に使用する注射針や血液バッグは一人ずつ取り換えますので、献血によりエイズや肝炎などに感染することは絶対にありません。

科学が進歩した今日でも、血液は人工的につくることができないものです。病気やケガと闘っている方たちのために、ぜひ献血にご協力ください。

●●水の日・水の週間●●

水は限られた資源　使い方を工夫しよう

はるか昔から、人類は水とともに生きてきました。わたしたちの生活は、はかりしれない水の恩恵によって支えられてきたといっても過言ではありません。そして現代は、以前にも増して人と水の密接な関係が続いています。生活用水や工業用水など、昔以上に水の使用量が増えたため、水はますます貴重な資源となりました。

八月一日は「水の日」、この日から「水の週間」もスタートします。いま一度水の大切さを見直し、使い方に工夫を凝らしていきたいものです。

◆本当に日本は水が豊かか

地球上にあるあらゆる水のうち淡水（真水）は何%を占めるかご存じですか。答えは三%。残りの水はすべて海水です。しかしこの三%の淡水のうち、七〇%は南極やグリーンランドの氷です。つまり、生活に使える水はごくわずか――地球上の水の〇・八%にすぎないのです。

「でも日本は水が豊富なほうではないか」と思われている方も多いようですが、本当に日本は水が豊富な国なのでしょうか。

大部分の水が海へ流出

日本の年間平均降水量は約千七百五十ミリで、世界平均降水量（約九七〇ミリ）の約二倍です。この数字だけを見ると、日本は水が豊富なようですが、狭い国土に人口が多いため、一人当たりの降水量は世界平均の六分の一となってしまいます。

また、雨は毎月平均的に降るわけではありません。限られた季節に梅雨、台風、雪などが集中します。しかも国土は山地が多く、河川の流れが急なために、大部分の水がわずかの間に海へ流れてしまいます。自然に蒸発してしまう分も考えると、わたしたちが使える水は、年間平均降水量の三分の一ほどになってしまいます。

このように見てくると、水はいつも豊富にあるとはいえない、限られた資源といえるでしょう。

ことわざにみる日本人の水意識

わたしたちが生活していくうえで、水は貴重な財産です。ところが、蛇口をひねれば水がでるという便利さからでしょうか、現代人は水の恩恵を忘れつつあるといわれています。いま、現代人が水の大切さを思い返すのは、水不足のときだけといわれるのもこのへんにあるようです。

ところで、日本人は昔から水に対してどのような意識をもってきたのでしょうか。

「ことわざ辞典」で「水」にまつわることわざを拾い出してみると、400以上もありました。これらは古人の人生観や生き方、教訓などを教えてくれます。おもしろいことに、昔の人たちも水に対してさまざまな考え方をもっていたようです。

「水は天から貰い水」は、生活に必要な水は天から降った雨をあてるという意味です。また「湯水のように使う」は、金銭の使い方を水にたとえたもので、水の豊かさを言い表しています。

これに対して「一滴の水も積もれば湖水となる」や「水の恩はおくられぬ」（恩返しできない）などは、水の大切さを的確に表しているたとえといえます。このほか、安定的に水を確保することの難しさを「水の飲み置きで役に立たず」などとも言っています。

当時の人々にとっては、絶えまなく流れる水は無尽蔵にあるようにみえたでしょう。また干ばつなどで水不足になったときは、水を現代人よりも大切に思えたのでしょう。

現在はダムもでき、ある程度の水の確保はできるようになりました。しかし多くの水は川を下り、海へ流れてしまいます。生活に使える水はごくわずかであることをいま一度心したいものです。

これから水の需要が増える夏に、一人一人がことわざのココロを思い返して水を大切に使っていきたいものです。

ふるさとの文化財 ㊷

厚樫山（地名考）

菊池利雄

古代の阿津賀志山

文治五年（一一八九）奥州合戦の主戦場となった阿津賀志山は、現在厚樫山と書かれるが、国見山・たんがら山・丸山・経塚山など多くの別称がある。

平安時代の中頃に書かれた、『延喜式』（延長五年（九二七））には、都より陸奥国に通じる東山道に駅馬が置かれ、伊達（現伊達郡桑折）・篤借（現宮城県白石市）の駅がみられる。同じ頃、源順の編さんにかかる『倭名類聚抄』（承平年間九三一～三七）にも、陸奥国の刈田郡には篤借郷（白石市南部一帯の地）の記載があり、厚樫山はこの篤借に関連した名称とみることができる。

篤借のアツとかアズのつく地名は、古代における東国の方言で「崖・崩崖」を意味し、カシは「傾ぐ」とか、「首をかしげる」などの用例から「谷壁・山麓・自然堤防の傾斜地」をさすものとされている。（『地名の語源』鏡味明克・『古代地名語源辞典』柳原恭介外）厚樫山山頂部の東側は急傾斜をなす崖地が発達し、山麓部はゆるい傾斜をなす地形を呈しており、アツ（崖）カシ（傾斜地）と古代の地形表示にかなった名称とみることができる。

このように篤借本来の地名は、県境を越えた白石市南部一帯の古い郷名であり、現在の厚樫山と呼ばれる山は、その南側伊達郡国見町に位置しているが、これまで文献上に現れた厚樫山は、どの山を指し、どのような書き方がなされてきたのか検討してみよう。

鎌倉時代に書かれた『吾妻鑑』の阿津賀志山は、篤借の万葉がなによった表記であり、元禄十三年（一七〇〇）の『貝田村絵図』（福島県歴史資料館所蔵）や、安永年間（一七七二～一七八一）に仙台藩で作成された『風土記御用書出、越河村』の古戦場として、八ツ頭山、あすかし山があり「右両所源頼朝公泰衡御追討之節防戦之地ニ御座候由申伝候事」（『伊達二郡村誌』）とある。また明治十四年『貝田村誌』にも阿津賀志山の記載があり、いずれも貝田・光明寺・越河村との境界付近の現県境稜線上の山々があてられている。『光明寺村誌』には東越山（注記に厚樫山とある）があり、石母田の『国見神社由緒書』によれば、「国見山、厚樫山ト称スルハ、奥羽通行ノ要路ニ当レル山坂ナルヲ以テ東越トモ書キ、アツカシヤマト呼ビ為セリ。」とある。『大木戸村誌』には国見山（注記に阿津賀志山のこと）『石母田村誌』にも国見山（現厚樫山）とあり、アツカシ地名の分布状況よりみて、往時の阿津賀志山は、東山道沿いの刈田郡との境界一帯の山々を指した総称とみるべきであり、明治の初め頃より文書に現れる厚樫の表記が一般化するのは、明治四二年に陸軍参謀本部陸地測量部が作成した五万分ノ一地形図『桑折』が出版された以降のことであろう。

別称のたんがら山、丸山はその形状から、経塚山は経ケ岡の地名からみて、かってこの山に経塚が営まれたことに由来したものであろう。

参考文献　『村誌』は『伊達二郡村誌』所収。

歳時記

かき氷

「氷」という文字に、涼しい気な波などをあしらった「氷旗」が店先につるされているのは、まさに夏の風物詩です。

その氷旗を見て、子供たちが「あっ、フラッペの店がある」と言っているのを見かけました。かき氷は、現代っ子にとってアイス・フラッペなのです。

フラッペとは、かき氷にリキュールをかけたり、果物などを飾ったものをいうようです。たしかにその店では、発泡スチロールの器にかき氷を入れ、派手な色の清涼飲料をかけたフラッペを売っていました。ストローの先が開いて、スプーンのようになったもので食べるのです。

夏に氷を珍重して食べたのは昔からのことです。日本書紀にも、地面を掘って氷を保存したことが載っており、削氷（けずりひ）は、宴席の献立として出されていたようです。

保存した天然氷を使った氷水の店は明治のはじめころからあり、明治中期からは人工氷が出回りました。それが今では、氷は家庭の冷蔵庫で作られるようになり、電気かき氷器は、お中元の品としても人気があります。

レトロ（懐古）ブームで氷旗をよく見かけますが、氷も世につれて変わっているのですね。

ところで、夏は冷たいものの食べ過ぎや食中毒の多い季節。八月の第一月曜日から一週間（今年は八月一日から七日まで）は、食品衛生週間です。この期間中は食品衛生監視員の監視活動が強化され、また、食品衛生思想普及のための行事が各地で開催されます。

63年度 狩猟免許試験の案内

一、受付期間

第一回＝7月11日～8月10日
第二回＝8月20日～9月10日

○郵送による申請は、受付締切日の消印のあるものまで受け付けます。

二、試験期日及び会場

第一回＝昭和63年9月6日
・郡山市労働福祉会館
第二回＝昭和63年10月3日
・郡山市労働福祉会館

三、合格発表

試験施行の一週間後まで住所を管轄する福島県林業事務所において発表します。

四、受験手続

㈠受験申込用紙の請求
・住所を管轄する福島県の各林業事務所で交付します。

㈡提出書類
①狩猟免許申請書…一部
②受験票…一枚（あて先を明記し、40円切手をはってください。）
③写真…一枚（申請前六か月以内に撮影した無帽、正面、上三分身、無背景の縦3.6cm、横2.4cmの写真で、裏面に氏名及び撮影年月日を記入。）
④医師の診断書…一部

㈢申請書等の提出先
住所を管轄する福島県林業事務所。

※詳しいことは、福島林業事務所総務課（☎二一―一一一一、内線三三三二）へお問い合わせください。

薬草教室開催

近年、身近にある薬草や漢方療法が見なおされ、愛用者が増えてきています。

町では、健康で豊かな生活を確保するため、薬用植物についての基礎的な知識を深めるとともに、その見分け方、採取、利用方法等について、町民の皆さんを対象とした薬草教室を開催いたしますので、ぜひご参加ください。

一、日　時

昭和63年7月30日（土）午後1時半～3時

二、場　所

国見町福祉センター

三、講　師

薬草研究家　大沢　章先生

四、内　容

㈠薬草採取と保存法
㈡薬草の利用法と効用

自衛官募集

防衛庁では、来春高校卒業予定者（既卒業者含む）を対象に、自衛官並びに各種学生の募集を次により受付します。

男子	年齢	受付期間
二等陸海空士	21歳未満	7月1日～卒業時
一般曹候補学生	21歳未満	8月1日～9月16日
航空学生	20歳未満	8月1日～9月20日
防衛大学校学生	21歳未満	10月1日～10月25日

詳しくは自衛隊福島募集案内所（☎三一―五五二九）または役場住民課へお問い合わせください。

みんなで防犯　楽しい夏を
～夏の防犯運動～

夏は、子どもたちの待ちに待った夏休み。その解放感と気のゆるみ、暑さと疲労などを要因とした事件、事故が多くなる時期です。

県警では、7月1日から8月31日までの2カ月間「夏の防犯運動」を実施します。

家族みんなで防犯に心がけ、事件や事故のない楽しい夏をすごしましょう。

◎カギかけは
家族みんなの合言葉

夏は、蒸し暑さから戸締りも不十分になりがちです。ドロボウやチカンは、このちょっとしたすきをねらっています。

カギかけは、だれにでもできる防犯です。

◎愛車にもカギかけを

夏になると車内が熱くなるため、クーラーを切らないようエンジンをかけたまま駐車したり、窓を半開にしておいたりしていませんか。

愛車や車内の貴重品を盗まれないよう、車を離れる際は、窓を閉め、ドアロックをしましょう。

◎痴漢にご注意

夏は、身も心も開放的になり、痴漢等の性的犯罪がたいへん多くなります。

心のカギを締めて、被害に遭わないようにしましょう。

◎愛の手で
のばせよい子とよい心

夏休みは、学校からの解放感と気のゆるみ等から少年非行の芽生える季節です。

特に、万引などの「初発型非行」は、他の非行の誘因となりますので、子どもたちの行動を見守り、親子の対話の時間を増やし、適切な指導助言を与ましょう。

◎花火事故をなくそう

子どもにとって花火遊びは夏には欠かせない楽しい思い出になりますが、花火による火災や事故も少なくありません。花火遊びには、必ず大人が付添い、万一に備え水を準備しておきましょう。また、筒花火は火が消えてものぞかない等の注意事項を必ず守りましょう。

ーヤングのための3Y運動ー

万引きを
- Yaranai（やらない）（規範意識の高揚）
- Yarasenai（やらせない）（環境・条件の整備）
- Yurusanai（ゆるさない）（予防）

夏の交通事故防止 県民総ぐるみ運動

七月二十一日～八月二十日

夏は、暑さや行楽による疲労、長期間の休みという解放感からくる無謀運転等による交通事故が多くなります。

死亡事故は七月・八月に多発しており、過労（居眠り）運転やスピードの出しすぎに注意しましょう。

また、ドライブなど長時間運転する場合「無理のないスケジュール」「疲れたら休憩を」などを守りましょう。この時期は、本格的なツーリングの季節を迎えて、二輪車の事故も多くなっています。ヘルメットを着用し、安全運転に心掛けましょう。

～守ります　ベルトに　速度に　車間距離～

ご存知ですか 建設業関係の皆さん!!

建設業を営む方々、及び建設現場で働く皆さん、国が作った「建設業退職金共済制度」をご存じですか。

この制度の特色は、一般の退職金のように労働者が事業所をやめた時支払われる退職金でなく、建設業という一つの業種の中で働く限り、事業所に雇用された期間全部を通算して退職金を支払うという、いわば建設業界ぐるみの退職金制度です。

退職金は、国の制度ですから、確実、安全であり、極めて有利な利回りで計算されています。

現在、全国で12万の事業主、168万人の労働者がこの制度に加入し、退職金の積立てが行われ、すでに44万人の労働者が退職金を受け取り、その額は934億円を超えております。

この制度について詳しいことは、福島市五月町4－25　福島県建設センター内建退共福島支部（☎二一－〇二四四）にお問い合わせください。

融資のご案内

国民金融公庫では、中小企業の皆さんへ夏期商戦に備えて次の要領で融資を行なっております。

◎普通貸付
・事業を営んでいるほとんどの方にご利用いただけます。

◎融資額
・三千五百万円以内
（特定の設備資金は四千五百万円以内）

◎融資期間
・運転資金　5年以内
（必要に応じて7年以内）
・設備資金　10年以内
（特定の設備資金は20年以内）

◎利率
・年5.5％
（運転資金5年、設備資金10年を超える場合は金利が若干上乗せとなります。）

詳しくは、福島市大町1の16、国民金融公庫福島支店（☎二三－二三四一）または国見町商工会（☎八五－二二八〇）にお問い合わせください。

戸籍の窓口

（6月受付分）

出生おめでとうございます

子の名	保護者	部落
美紗樹(みさき)	高野真紀夫	石母田東
由佳(ゆか)	仲田　昇	宮町北二
麻祐(まゆ)	佐藤　正寛	第　根
正崇(まさし)	遠藤　喜正	山　野
由梨絵(ゆりえ)	佐藤　一也	上　野
広行(ひろゆき)	小島　利夫	第十二

結婚おめでとうございます

氏名	部落
榊　正博	山崎小館
紺野　薫	福島市
鈴木　保幸	川内
幕田　智子	源宗山西
紺野　広信	泉田下
岡　春美	安達町

おくやみ申し上げます

氏名	年齢	部落
実沢　ミサホ	90	第九
八巻　ハルン	67	徳江北
八島　キン	81	石母田原
高橋　シウ	73	泉田中一
樋口　仁三郎	60	第十二
鈴木　キセ	81	第十九
村上　ミエ	81	第九七
後藤　正美	81	第七
鴨田　一子	69	内谷西

人口と世帯

7月1日現在(前月比)6月中のうごき

人口	男 5,777人（＋3）	転入	21人
	女 6,246人（－3）	転出	18人
	計12,023人（±0）	出生	6人
世帯数	2,911戸（＋4）	死亡	9人

暦

7月　文月（ふみづき）	8月　葉月（はづき）
16日（土）勤労青少年の日	1日（月）水の日
20日（水）海の記念日	6日（土）広島原爆記念日
21日（木）土用の丑	7日（日）立秋・仙台七夕
22日（金）大暑	9日（火）長崎原爆記念日
24日（日）相馬野馬追	10日（水）道の日

心配ごと相談日

場所：役場二階相談室（東側入口からお入り下さい）
時間：9時～12時

こまったことや、相談ごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。

〔相談員〕

7月25日（月）鈴木　正雄・牧野　容子
8月5日（金）斎藤　光夫・築瀬　貞子
8月15日（月）菅野　賛郎・高野　時子

公民館だより

国見町公民館
☎85－2676
(有) 4156

「少年仲間づくり教室」開講

きみも、ぼくもきょうから仲間だ!!

少年仲間づくりは、同じ町内に住んでいる年齢の異なる少年少女が一同に会し、創作、スポーツ、レクリエーション、伝承遊び、野外活動を通して仲間をつくり、そして仲間の大切さを学ぶことを目的としています。

去る六月二十六日、開講式を行ない、つづいて第一回の学習を行いました。

集まった仲間でも、はじめて見る顔がほとんど。

でも班編成してのゲーム遊びになるとすぐに良き仲間になり、応援しあうなどゲームに興じていました。

少年仲間づくり教室は、今後二泊三日のキャンプ研修等の野外活動、学習を重ねて多くの仲間をつくり、友情を深めていきます。

▲少年仲間づくり教室開講

婦人学級研修に参加して

安田　節子

六月十九日、中央婦人学級と高城婦人学級、西大枝婦人学級、のばら婦人学級（森山）の合同研修旅行があり、私も子どもと共に参加しました。

研修先は、滝根町のあぶくま洞と、郡山の開成館、本宮の蛇の鼻遊楽園。初めて参加した人は少なかったのですが、忙しい家事から解放されての一日、皆さん私と同じように心うきうきといった感じでした。

天気は晴。相馬から来たというバスガイドさんの名調子にうっとりしているうちにあぶくま洞に到着。洞内の滝根御殿でコーモリに驚かされたり、自然の力強さに何度も感動してしまいました。

開成館は、あさかの里と安積疏水を身近かに感じさせる資料館でした。蛇の鼻遊楽園は、今がバラの花ざかりでとてもきれいでした。

合同研修も回を重ねるごとに充実してきて、顔見知りも多くなり、話もはずみます。今後も研修を通して、友情と知識を深めていきたいと思います。

▲蛇の鼻遊楽園で記念撮影

阿津賀志山の故戦場めぐり

安藤善三郎

成人学級の六月学習として、来年八百年を迎える奥州合戦の跡を見るため、六月二十九日、二十一名は現地研修をしました。

厚樫山の展望台に向う途中、石母田の龍雲寺裏でカモシカの親子を見て驚きました。展望台で、講師の菊池利雄氏から絵図面を見ながらの説明を受けました。次に、奥州街道の名残を留める長坂の茶屋跡を見学。芭蕉が伊達の大木戸を越えた所でもあり、記念碑が建てられています。昔、多くの旅人や参勤交代の大名達の姿が偲ばれます。

また、サクランボ畑の中にある「阿津賀志故戦将士の碑」を見学。これは、奥州合戦七百年を記念に有志が建立したもので、信夫郡長柴山景綱撰による碑文が記されています。

そのほか、二重堀や遠矢崎城跡などを見学、近くにありながらなかなか見ることのできない町の史跡を見た私たちは、町として全国に誇る価値のあるものだと感じました。合戦八百年を迎えるにあたり、このことを多くの人に知っていただきたいと思いました。

健康体操教室生徒募集

運動不足でお悩みの方、音楽に合わせて、楽しく運動しましょう。

- **練習日**　毎週金曜日　午後八時～九時
- **場　所**　国見町福祉センター二階講堂

※申し込み及び問い合わせは、後藤五輪子（いわこ）宅（☎八五－二四六二）まで。

奥州合戦と奥の細道
～研修旅行に参加して～

安孫子　光夫

国見町郷土史研究会（会員三三〇名、松浦芳蔵会長）では、毎年、会の主要行事の一つとして研修旅行を実施しています。

今回は、来年が奥州合戦八百年と、芭蕉の「奥の細道」入り三百年にあたることから、奥州合戦の主戦場となった阿津賀志山での攻防に思いを寄せながら、関東方の白河からの進路を探るとともに、芭蕉の今に語りかける足跡とをたどってみようと、去る六月十三日、菊池利雄氏の案内で、会員四十名が二台のマイクロバスに分乗して研修を行いました。

当日は、午前八時、公民館を出発、一路高速道路を南下し、栃木県境にある二所の関「境の明神」と、関所跡として今に残る「白河の関」に往時を偲び、ここから南湖公園を経て白河城跡、関和久遺跡、踏瀬奥州道中松並木、須賀川一里塚、須賀川城跡等を巡ったあと、万葉集にその名をとどめている安積山に、幻の「花かつみ」を追い求めた芭蕉の姿を思い浮かべ、更に途中石那坂の古戦場に足を伸ばして、つわものどもの夢の跡に言い知れぬ思いをはせながら、一日の行程を有意義に終え、午後六時公民館に無事帰着しました。

なお、今秋はこの第二弾として、国見から多賀城まで研修することになっています。

県民スポーツ大会
町代表決る

壮年ソフト……宮町チーム
バレーボール…小坂チーム

県民スポーツ大会町予選会が壮年ソフトボールが五月二十九日、バレーボールが六月十二日町民グランド、町民体育館で熱戦が繰り広げられ、壮年ソフトで宮町チーム、バレーボールで小坂チームが優勝し、七月十七日行なわれる県北大会に町代表として出場することになりました。

両チームのご健闘を期待します。

▲熱戦が展開されたバレーボール

盛況だった
読書教育講演会

子供たちによりよい本を与え、心豊かな人間に育てるため「自然科学の本の楽しさを子ども達へ」と題した読書教育講演会が、町教委の主催で去る六月二十五日、町公民館において開催されました。

講師の沼知方子先生は、科学の本の研究者で、子供の探究心や創造性を養う上で、科学的に物を見る目を育てることの大切さを、子供向けの自然科学の本の解説や家庭でできる簡単な実験を交えながら、具体的に楽しく話をされました。

参加した約70名のお母さん方も、夏休みを前に子供たちの自由研究の参考にと、熱心に耳を傾けていました。また、会場に展示された公民館所蔵の約二百冊の自然科学の本も皆さん手にとって興味深く読んでいました。

公民館では母と子の公民館活動などを通して、子供たちに多くの本を提供し、創作活動をしながら読書教育を進めています。図書室にもたくさんの幼児、児童図書がありますので、この夏休みは是非、子供さんと一緒に公民館へお出かけ下さい。

▲大勢の人が集まった読書教育講演会

きれいになった民家園
阿津賀志学級

去る六月二十四日、午前九時から、阿津賀志学級生による古民家園の内部とその周辺の清掃を行ないました。

幸い天候に恵まれ、藤田勝衛委員長を初め、百二十三名の学級生が参加し、各自持ち寄った用具で分担して作業に当たりました。

みなさん熱心に作業し、短時間のうちに見ちがえるようにきれいになりました。

ジュニアリーダー研修会開催される

地域の青少年活動をより活発にするため、野外活動を通して集団生活の技能や役割を身につけるなどを目的に、六月十二日、ジュニアリーダー研修会を開講しました。

研修には県北中学校の男女三十六名が参加。宮城県の国立南蔵王青少年野営場での二泊三日のキャンプ活動をはじめ、十一月には文化財をめぐりながらのウォークラリーを実施。野外活動を中心に、研修が計画されています。青少年のリーダーとして、今後の活躍が期待されます。

▲ゲートボールに挑戦（ジュニアリーダー研修会）

集めたゴミトラック一台分
～森江野小クリーン活動～

▲集めたゴミの山を前に

〝空き缶やゴミをなくし、学校周辺をきれいに〟と、去る六月十五日、森江野小学校（大竹英智校長）の児童会（斎藤洋平児童会代表）が中心となり、クリーン活動を行いました。

当日は、児童全員と先生が七つの「なかよし班」に分かれ、学校周辺の道路脇や側溝を約一時間にわたってジュースの空き缶やゴミを拾い集め、その量はトラック一台分にもなり、児童たちはゴミの多さに驚いていました。

町納貯連に表彰状

▲佐久間町納貯連会長

去る六月十日、福島県納税貯蓄組合連合会定期総会の席上、国見町納税貯蓄組合連合会が、優良組合として表彰されました。

これは、国見町が他町に先がけ各地区毎に納税組合をつくるなど、納税思想の普及高揚を納期内完納につとめ、県内において税の収納率が毎年上位にランクされるなど、その実績が認められての受賞です。

これに対し、佐久間正寛町納貯連会長は、「今回の表彰は、町民皆さんの税に対する深い理解とご協力があってのものです」と語っていました。

クリーンアップ作戦
二千八百名参加

▲滝山地区で

七月三日、県下一斉にクリーンアップ作戦が展開されました。

町では、各地区の皆さん及び町内各土木業者の方々の積極的な参加で、大きな成果をあげることができました。

当日は、あいにくの梅雨空にもかかわらず、国見町全体で約二千八百人もの参加があり、町内を流れる滝川・牛沢川・普蔵川・上泉川・竜護院川・滑川外中小河川も実施し、空き缶・廃材・廃プラスチックなどのゴミの回収及び雑木伐採、草刈りを行いました。

回収されたゴミ類はダンプで二十台分、約八・七トンにものぼりました。

▲集めたゴミはトラック20台分

▲普蔵川（塚野目地区）で

不思議！赤いどじょう発見

七月四日、小坂の横山庄市さん（小坂字小坂58）が、何気なくのぞいた自宅前の側溝で、赤いどじょうを発見、捕獲しました。体長は約15㎝、色が薄い赤色をしていました。

▲赤いどじょう
（カラーでないのが残念）

編集日記

六月中旬、尾瀬に行って来ました。夜十時に国見を出発し、車中一泊、桧枝岐一泊の強行軍。沼山峠駐車場に到着後、冷水で顔を洗い元気にスタート。途中会う人ごとに交わす「こんにちは」がとてもすがすがしい。なかにはハイヒールにスカート姿の女性もいて驚いたりしているうちに、尾瀬沼を一望できる標高一七八四㍍の沼山峠に到着。すばらしい眺望に眠気も飛んでしまいました。おいしかったのは桧枝岐のそば。機会があれば、また訪れてみたいと思った「はるかな尾瀬」でした。（K）

発行・編集　国見町企画課　福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁田二2の1
〒九六九－一七　☎（〇二四五）八五－二二一一（代表）